

令和 3 年 6 月 28 日現在

機関番号：99999
研究種目：奨励研究
研究期間：2020～2020
課題番号：20H00717
研究課題名 地域貢献人材を育成する課題解決型学習プログラムの研究開発

研究代表者

西野 功泰 (NISHINO, YOSHIYASU)

市立札幌大通高等学校・教諭

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 470,000円

研究成果の概要：生徒たちから、地域に自らも貢献しようという自覚（職業観）を引き出すために、地域資源連携に基づき、多様な大人と協働しながら学ぶ、課題解決型学習プログラムを研究開発した。
研究成果は主に二つある。第一に、生徒の語りを分析した結果、「『価値』を感じる出会いを、この土地で経験した」という語りに見られるように、地域を学びの場とすることで、自分が暮らすまちの価値を発見し、周囲の環境を捉え直すことで、地域貢献人材としての自覚が芽生え、職業観の深まりを確認することができたことである。第二に、学校の存在意義や社会的役割を捉え直すにあたり、地域とのネットワーク構築が必要不可欠であることを改めて示すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

生徒たちは様々な体験を通じて、自分たちが暮らすまちの価値を、これまでとは違った視点で捉え直している。まちや地域の課題をテーマとした、課題解決型学習を取り上げた教育活動が全国的に広がりを見せる中、「地域貢献のために何ができるか考えましょう」という学習活動では不十分であり、地域の人と連携して活動すれば良いというわけではない。
本研究の学術的意義は、職業観の形成を目的とし、地域連携を手段とした授業モデルを実証的に示したところにある。また、その社会的意義は、この実践で学んだ生徒たちが自分たちの暮らすまちに価値を見出し、そこで生きる意味をつくり出し、地域に貢献しようとする新たな自分が形成されたことにある。

研究分野：社会科学 教育学 キャリア教育

キーワード：職業観 地域貢献人材 課題解決型学習 地域連携 貧困 機会格差 学校の社会的役割 学校の存在意義

1. 研究の目的

子どもの貧困・機会格差の解決が政策課題となる中で、育った家庭環境等に関わらず、全ての子どもが多様な人との関わりや経験を積むことで、社会の担い手として必要な「資質・能力」を育成することが教育課題となっている。申請者が勤務する札幌市は、19歳以下の生活保護受給率が全国平均1.27%に対して4.1%と高く、子どもが相対的貧困にあることが社会問題となっており、学習や進路選択、人生設計にまで大きな影響を及ぼしている。

本研究の目的は、教育における機会格差の是正に資する学習プログラムを研究開発することにある。そのために、多様な大人の価値観に触れ、本物の体験をすることで、「自らが何を通して社会に貢献するのか(職業観)」に焦点を据えた、地域資源(ヒト・モノ・コト)連携に基づく課題解決型学習(PBL、Project-Based Learning)プログラムを研究開発することにある。

2. 研究成果

本研究では、学校設定科目「キャリア探究」講座((定員40名)45×35単位時間))を研究対象とし、受講者の学習過程に伴走しながら、かれらの「自らが何を通して社会に貢献するのか(職業観)」がどのように深化していったのかを分析した。臨床教育学の分析方法である「当事者の語りの分析」を研究方法として採用し、生徒たちとの活動中における対話や提出されたレポート、インタビューを記録し、文字資料に起こした上で分析した。

研究成果は二つある。第一に、地域を担う人材としての「資質・能力」の高まりと、自らが何を通じて社会に貢献するか(職業観)の深まりを確認できたことである。地域資源(ヒト・モノ・コト)連携を、これからの地域を担う人材の育成と職業観の深化を支え促す手段として位置づけ、多様な専門家と触れ合い、その人物から発せられる言葉を聴き取ることで、まちの「仕事」や「働く」について、体験的に学び、一つひとつの言葉に刻み込まれた「生き方」への問いが、世代や立場を超えて、大人の中にも、自分たちと同じように生き方を問うものが存在することを発見し、これからどこへ向かえば良いか、どうすればよいか、自分の役割や可能性を思考することで、生徒たちは自己のあり方や生き方と一体的で不可分な課題を発見し、自らが何を通じて社会に貢献していくか「進路(生き方)選択」という自覚が生まれていた。

第二に、こうした学習活動を推進していく上で、学校の存在意義や社会的役割を改めて捉え直すため、地域との対話を通じて、教師が、多様な大人と手を取り合って、生徒たちの活動を支え、成長を共有するつながりを広げていく営みを丁寧に積み重ねていくネットワークの構築が必要不可欠であることを改めて確認できた。

生徒たちは、互いの得意分野を共有しながら、自分たちの学びを支え、地域に貢献しようとする大人の姿から、「自分たちにもできる」という意識が芽生え、社会の中で自分が果たすべき役割や、地域を担う人材としての「資質・能力」が緩やかに育まれるのである。

今後の課題は、本研究開発の成果に基づいて、「地域に多様性を生み出し、地域の魅力化に貢献する力(地域貢献力)」の形成を支え促す、地域連携に基づく課題解決型学習(PBL、Project-Based Learning)の研究開発をすすめることにある。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 西野功泰
2. 発表標題 21世紀の学びを実践する教師の学習コミュニティを培う
3. 学会等名 実践研究福井ラウンドテーブル（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西野功泰 佐々木力也 稲村悠也
2. 発表標題 地域資源を活用した課題解決型学習について
3. 学会等名 ラウンドテーブルin尼崎
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西野功泰
2. 発表標題 地域貢献人材を育成する課題解決型学習プログラムについて
3. 学会等名 実践研究福井ラウンドテーブル（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
鮫島 京一	(SAMESIMA Kyoichi)